

1・赤い肌

豊丘村豊丘中学校三年 N・S

ゴーゴー

地獄の底からの 悪魔の勝利の声が  
私の胸に聞こえる

人間をあざ笑っているようなあの声  
きのうまでの

静かで、澄みきって、ゆるく流れていた天竜川が  
悪魔の声と一変した

巨大な何かに もてあそばれているような この世界  
あの何かは、

人間の心を、苦しみを、よろこびを、  
人間の若さを、

そして静かな平和を  
ある人々から ひったくって行った

一生かかって作りあげてきたものも  
あの黄色い濁流と変った

父母をさえ 幼い子どもから取り去って行った

ああ

横暴にふるまうあれを

私たちは見ているだけだ

大きな苦しみをぶつけて行った何ものかを  
せめることも、やっつけることも

ひっばたいてやることもできなかったのだ  
そして

悪魔はさつそうと通りすぎて行った  
あとに残ったものは

豪雨の中でもまれきった人間と  
命を失ったように疲れきった人間と

荒されたこの地上だけだった

私は 何という被害は受けなかった

私は じぶんの幸運をたいへん喜んだ  
だけだ

ひとり とり残されて行く人間のような気がする

嵐にひっかきまわされた人たちが

うちのめされた人たちが  
もう一度生き返ったとき

私は、一歩も二歩も十歩も 遅れた人間かもしれない

もう一度 嵐の夜明けを見た

茶色に濁った水は

青田を消し去っていた

ただ

緑の山に

ひっかいた爪あとのような

赤い肌がきわだっていた

(三十六年)